

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 005	提案機関名 平塚市
要望問題名 基盤整備に伴う、スマート農業機械の効率化影響の測定について	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 平塚市には湘南ライスセンターのほか、2カ所のライスセンターが存在するが、従業員の高齢化や担い手不足が課題となっている。 このため、本年度から、農業経営の拡大を行うにあたり、湘南ライスセンターの請負農地において、畦畔除去前と後の計測を行い1圃場の作業時間の計測や収量、肥料等の実測を令和6年度～令和7年度に農業者主体で計測を行う。 令和7年度から学術機関として、農業技術センターで研究し、とりまとめが可能であれば、学術的に裏打ちされた情報となるため、県のスマート農業の支援施策の基礎としても利用できる。 今後のスマート農業施策においても、基盤整備一体型の支援が必要になる事を鑑み、研究に客観性を持たせた情報収集が必要と考えられるため提案いたします。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	企画経営部 普及指導部 生産技術部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 既に計測が行われているとのことですので、地元の生産者の負担が増えないよう計測とその解析に普及指導部と連携して助言し、計測結果が、今後、様々な場面で活用できるデータとなるよう支援します。 なお、畦畔除去による作業性や収量性については、農作業研究会が公表している論文に詳細なデータがありますので参考にしてください。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考 塚野治夫・荒木肇・伊藤道秋・中野俊郎. 2001. 平野部における畦畔除去による区画拡大水田の作業性と収量性. 農作業研究. 36(2): 79-84. 鵜沼秀樹. 2018. ほ場区画と水稻作業時間の関係. 東北農業研究. 71: 105-106			